

きる仲間でいたいと思うのは私だけであろうか。4期生の皆さん・講師の先生方・学会事務局の皆さんと会えたことが、何よりの収穫であり、この講習会に『おわり』はないと思うのである。そして、5期生として学ぶのは、これを読んでいただいた、あなたであると思う。

### 「2013年度クリティカルパス実践セミナー in 青森」を開催して

青森県立中央病院整形外科部長 伊藤淳二

2013年10月26日(土)・27日(日)の2日間、全国から77名の参加者を迎えて当院で2013年度クリティカルパス実践セミナーを開催させていただきました。

初日は午後から始まり、参加者が7～8名ずつ10グループに分かれ、まず朝日野総合病院院長の野村一俊先生から「クリティカルパス作成の基本」についての講義を受けたのち、約2時間の持ち時間で各グループでクリティカルパスをひとつ作成しました。つい30分ほど前に初めて顔をあわせた参加者同士、最初は静かな重い空気でしたが、徐々に各グループとも活発なディスカッションがはじまりました。グループを引っ張ってくれる方・活発な質問で場を盛り上げてくれる方、それらを冷静に記録される方、など誰が言ったともなく役割分担がきっちりなされ、各グループに病院全体の縮図を見ているようでした。その後の発表も代表者が見事にこなされ、わずかな時間で作成したと思われないような完成度の高いクリティカルパスが次々と披露されました。

翌日は国立病院機構熊本医療センターの清川哲志先生に今回のセミナーのトピックスである「DPC時代のクリティカルパスの見直し」というご講演をいただいたのち、DPCの生データを手元において、それに使われたクリティカルパスを見直そう、という実習に入りました。はじめはDPCデータをどのように活用すればいいのか途方に暮れていたグループも多く、タスクフォースへの質問も多かったように感じましたが、データの読み方のコツがわかるとむしろわかりやすい、DPCとクリティカルパスは繋がっているんだ、という声も聞かれ、本セミナー初の試みにしては手ごたえがあり、これからの時代に必要な演習であったと実感しました。

台風が来て天候には恵まれず、その分スタッフの



会場風景

「お・も・て・な・し」の心でカバーしたつもりですが、色々至らない点があったことはご容赦ください。このような素晴らしいセミナーを開

催させていただきました野村一俊担当理事はじめ日本医療マネジメント学会の皆様、ご参加くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

### 2013年度医療安全分科会に参加して

阪和第一泉北病院副院長 横尾直樹

約1年半前に1,000床規模の医療療養型病院に着任し、医療安全管理委員会委員長を拝命致しましてから、誤薬はもとより介護上のインシデント・アクシデントが後を絶たずその対策に頭を悩ませておりましたところ、2013年度医療安全分科会の案内文で、「何か足りない、上手くいかない、どうすればいいのか」との文言を拝見したのが参加の契機でした。その際、常日頃最前線で苦労を重ねている看護部医療安全管理者こそが格好の参加対象と考え、当事者に声をかけました結果、当院から合計3名での参加となりました。

基調講演では「匠と女将の世界からシステムとチームの時代への転換」、「CIAから参謀本部への転換」との考え方が示され、大変深い感銘を受けました。「悩み」「やりがい」に関するワークショップでは、多種多様でありながらほぼ共通の「悩み」「やりがい」であることが改めて認識されました。「メタマネジメントを通しての組織の変化を実感することにより、医療安全管理者が誇りと自信を持てる」とのメッセージとともに紹介された種々の手法や、コーチング等のノンテクニカルスキルに関する講演は、多くの参加者にとって今後の活動に向けて大いに参考となったのではないかと思います。

大変和やかな楽しい雰囲気の中で有意義な二日間を過ごさせていただきました、関係各位の多大なるご努力に対し、心よりお礼申し上げます。

### 2013年度第2回医師事務作業補助者講習会に参加して

川崎市立多摩病院 秋谷裕子



会場風景

2013年11月、4日間に亘り関西(大阪)で開催された医師事務作業補助者講習会に参加しました。今回の講習会では、各講師の方による解剖から病態、医療用語

についてまで非常にわかりやすい講義となっていました。「先進事例について」として、実際行っている医師事務作業補助業務内容や医師事務作業補助者の活用による効果など興味深い内容を伺うこともできたため、とても参考になりました。また、診断書や診療情報提供